

内閣府「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」受託事業
シンポジウム「女性の視点でビジネスに新風を ~発想を変えて会社を変える~」
埼玉中小企業家同友会 機関誌「DOYOUさいたま」掲載記事

特集：女性経営者クラブ・ファミ

「男女共同社会」への架け橋に

埼玉中小企業家同友会に女性部が誕生してまもなく30年を迎えます。経営者婦人の実学的な学びや悩みの交流からスタートした活動は、経営者としての学びと実践を通じた企業づくりへと大きく変化してきました。そして今、女性経営者クラブ・ファミは、時代の流れに沿って地域づくりや社会づくりへとその取り組みを広げ始めています。

シンポジウム

「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」

女性経営者クラブ・ファミ シンポジウム

テーマ「女性の視点でビジネスに新風を ~発想を変えて会社を変える~」

共催：内閣府、男女共同参画推進連携会議、埼玉県、中小企業家同友会全国協議会、埼玉中小企業家同友会

女性経営者クラブ・ファミでは、内閣府の「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画事業」を受託し、1月21日大宮ソニックシティにてシンポジウムを開催しました。これは、過去6年間、埼玉県の男女共同参画推進事業を受託した経験から、さらに一歩進んだ活動をめざそうと取り組んだものです。当日は、ファミメンバーに加えて、男性経営者、他団体、行政、一般の方々を含め93名の方々に参加頂きました。

内閣府より男女共同参画局推進課推進係長・大高和久様、埼玉県より男女共同参画課課長・山崎仁枝様、中同協女性部連絡会代表・糸数久美子様が主催者として挨拶、ファミの岡部委員長が開催趣旨を述べ開会しました。いまや消費の大半を握るのは女性です。どんな商品、どんなサービスもお客さまから支持されなければ売れません。女性の視点・発想をどうビジネス戦略に結びつけるのか…? パネルディスカッション、グループ討論等の概要をご報告します。



パネルディスカッション

テーマ「女性の感性が生きる経営戦略」

パネリスト：

上野広美氏（運輸業 / 丸越運輸倉庫（株））代表取締役
岡部千里氏（建築家 / アトリエ 3c+u 建築設計事務所）代表
久賀きよ江氏（小売業 / （株）メガネマーケット）代表取締役
小松君恵氏（保育業 / （株）コマーム）代表取締役
鈴木達弥氏（調剤薬局 / （株）鈴木薬局）代表取締役
進行役：戸高成二氏（彩ノ国総合研究所合同会社）最高執行責任者 中小企業診断士

「女性の感性が生きる経営戦略」のテーマでパネルディスカッションを行いました。女性をどう戦力として自社の経営に生かしていくか？男性中心と言われる運輸業・建築業、女性ならではの保育業、消費最前線でトレンドを追求する小売業、女性比率の高い調剤薬局業…経営者5人のパネリストが具体的な取り組みや経営者としての思いを語り合いました。

■女性経営者で良かったこと、悪かったことは何か

かつて女性の起業をバックアップする制度が不十分であったり、女性であるが故に金融機関の対応が厳しかったことなど、事業を展開するうえで女性としてのやりにくさを感じる時代がありました。また、男性中心の業界や企業では男女による上下関係のようなことが存在していましたが、徐々にそれらの女性軽視の状況は解消されてきたと思います。今は女性経営者だという理由で不本意なことはありません。

それに対し女性経営者で良かったこととしては、サービスの利用者や商品の購入者が女性の場合、解決すべき問題に対して「当事者」でいることが良い成果に結びついているように思います。さらに女性としての「共感」を持つことで、商品を販売する際に女性の感性を活かすことができている。



■女性社員の意見をどのように生かしているか

女性には男性にはない細やかな「気づき」の能力があります。店舗などの現場でしか得られない女性ならではの情報を、日々の提案として吸い上げ改善につなげています。それらは肩書きやキャリアに関わらず、良い意味で素人の視線をもって意見を発しているため、問題が見えやすくなっていると考えています。さらに、解決すべき課題に対して一緒に考え一緒に行動をするという、いわゆるマネジメント力により、社員同士がフォローし合う企業風土を作